

社会福祉法人 種の会 アルテ子どもと木幼稚園

〒164-0001 中野区中野 1-59-5

Tel 03-3365-0602

ホームページ URL <http://www.tanenokai.jp/>

2022

えんだより



ArteKodomotoki

お知らせ

- 第三者評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果は1カ月後となります。
- 給食の予約数管理のため、夏休みの予定（7月～9月）が決まりましたら担任にお知らせください。職員も交代でお休みをとりますのでご協力をお願い致します。
- 水遊び・プール遊びが始まります。各クラスで掲示しているお知らせをよく読んで忘れ物のないようお願い致します。
- 防犯対策として、玄関扉の鍵を設置しました。送迎の歳、鍵の施錠のご協力ありがとうございます。引き続き、よろしくお願い致します。

July 7 2022						
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1	2
3	4	5	6 音楽あそび	7 七夕 0歳児健診	8 運動あそび 発育測定	9
10	11	12 プール開き	13 音楽あそび	14 0歳児健診	15 運動あそび	16
17	18	19	20 避難訓練 音楽あそび	21	22 誕生会	23
24	25	26	27 音楽あそび	28	29	30
31						



子ども主体の乳幼児教育に向けて ～学校教育との架け橋～

園長 山田寿江

真夏日、猛暑日（一日の最高気温が 35℃以上の日）、異常気象…、このような言葉を毎日耳にします。園の畑では、ミニトマトやナスを収穫、スイカの実りも楽しみです。夏を健康に楽しく過ごしたいですね。

乳幼児教育と小学校教育の違い

先日、中野区の保育園と幼稚園、小学校の教職員が集い就学前教育について「主体的な遊びからの学び」をテーマに、子ども達の「主体的な姿」をどのように捉え関わっているか協議会が開催されました。

保育園や幼稚園、こども園では豊かな環境を設定し、一人ひとりが発達に必要な経験を通して、主体的に学ぶ姿勢を重視しています。一方、小学校では教科ごとに共通の目標があり「～ができる」「～がわかる」に重きを置き、決められた学習内容を効率的に学習させることが求められるのです。保幼小の連携では、この教育システムの違いを率直に伝えあい、聴き合う関係性を築き、お互いの違いを認めつつ、前向きな思考や新しい試みに挑戦する姿勢を生みだすことが望まれています。

世界では、十分な学びを満足に受けられない子どもが存在していますが、日本では、全ての子どもが等しく教育を受ける権利が保障されています。「人生100年時代」と言われ、生涯学習という言葉も定着しています。生涯に渡る主体的な学びを獲得するため、成果ばかり注目するのではなく、どのように学ぶか「学びのプロセス」の充実を図っていきたいと考えています。



泥んこ遊びしたい！～ やらせますか？ させたくないですか？ ～

保幼小連絡協議会に先立ち、就学前教育情報交換会がありました。園庭のない園の先生が「泥んこ遊びをさせたいのですが」と言い、ある先生が「子どもが望んでいるのですか？」と質問しました。泥んこ遊びは、砂や土の感触を味わい感覚を鍛えます。見立て遊びによる想像力も発揮され発達を促し、免疫力を高めることにも役立ちます。では、子どもは、本当に「泥んこ遊び」をやりたいのでしょうか？

数年前の乳児クラスでのことです。雨上がりの公園の水たまり、子どもがしゃがみ込んでそっと手で水を触り始めました。仲間が集まってきて、そのうち足でパシャ！パシャ！「あ～ちょっと待って～」保育者のストップの声です。楽し気な子ども達の笑顔は一旦お預け。そのまま続けていけば、靴も服も泥だらけ、びしょ濡れの靴では冷たいでしょう…と、ベテラン保育士は考えたのです。「やらせてあげたかったな～」若手保育士の心の声も聞こえてきそうです。

子どもは雨の日や水たまりが好きです。保育では子どもの姿をよく観察し、興味や関心のあることを捉えて遊びを展開していきます。「泥んこ遊び」も子ども達の様子をみながら設定します。いつでも子ども達のやりたい放題ではありません。何をしたいのかを見極める保育力が必要なのです。



泥だらけは洗濯も大変ですが
汚れた分だけ学びがあります。

【じゃいもの毒】

5歳さんの収穫したジャガイモは全滅です。ジャガイモは光にあてると緑色になります。これはジャガイモの天然毒素が増えてしまったことが原因で起こります。ジャガイモの収穫の時に、土から頭が出ているものは緑色をしていて、これには毒があるから絶対に食べてはいけないことを鈴爺（畑のボランティアさん）から教わりました。子ども達も丁寧に緑色のジャガイモをよけてくれました。

今年もテラスの畑からたくさんのジャガイモが採れました。その大切なジャガイモを陽のあたる場所に放置してしまいました。光を浴びたジャガイモは全て緑色になりました。

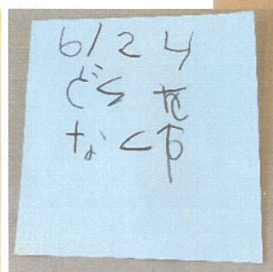
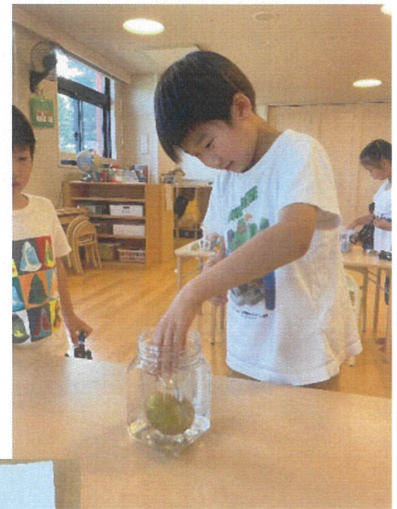


私はジャガイモをこっそり処分して、安全なイモにすり替えて子ども達と食べようと思いました。隠ぺい工作です。しかし園長から、子ども達に相談してアルテらしいアート作品にでもしたらどうかとアイデアをもらいました。私は少しドキドキしながら子ども達に真実を打ち明けました。

ジャガイモが緑になってしまったことを伝えた時、意外にも子ども達は落ち着いていました。もっと残念がったり、怒ったりするのかと思いました。そして、

「じゃあさ、もう一回、お日様にあてたら戻るんじゃないの？」
「水の中に入れてみたらどう？」

とても驚きました。私の頭の中には“元に戻る”という発想はなかったからです。食べ物を画材としてではなく、食べ物は食べ物として大切に思う事が子どもの中では当たり前のことのように育っている。こっそり処分しようとしていた自分が恥ずかしくなりました。諦めないでやってみようという考え方に感動しました。



6/24 どくをなくす↑

その日の夕方、早速実験のスタートです。子ども達の発想力が新しい遊びに導いてくれました。今後の展開が楽しみです。

「先生！わかったよ。人間もさ、お日様にいっぱいあると熱中症になるでしょ！ジャガイモも熱中症になったから緑色になったんだよ！」こんな可愛い意見もありました。

主任：黒木

※今月の表紙の写真は由季子先生が撮ったナイスショットです。屋上園庭での水遊びシーンです。お皿の中に水を入れようとホースに近づくのですが、水の勢いが強く、顔や体に水が跳ね返っているシーンです。

Atoo



0歳児室の隣の小部屋にボールプールを広げてみました。扉が開いた瞬間、我先に！とボールの入ったタライに近付き、次々とボールを手にとって遊び始める子ども達。舐めたり、振ったり、“どうぞ”と保育者に手渡したり…遊び方は様々です。Aくんは豪快にタライの中に入って気持ち良さそう。すると、Aくんの姿に興味を持ったBくんも、“僕も入る！”と真似をしてタライの中にダイブ！手足をバタバタさせて、ボールプールの楽しさを全身で味わっていました。友だちの行動に少しずつ興味を示し始め、真似をして遊ぶ姿が見られるようになってきました。



♪はじまるよ、はじまるよ～

保育者が手遊びを始めると、“何か始まったぞ！”と保育者の前に集まります。手遊びが大好きな子ども達は、保育者の真似をしようと手を動かしたり、「んあー！」と大声を出して嬉しそうです。

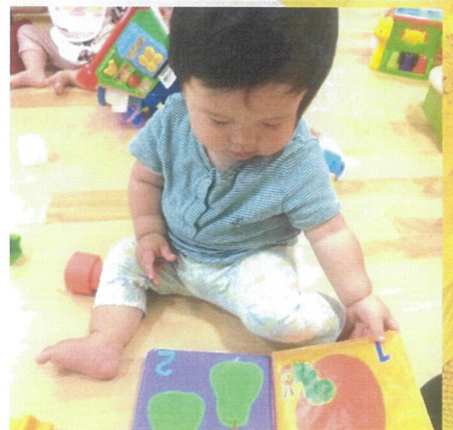
保育者が手に持っている絵本に気付くと、さらに大興奮！0さいアト組では今、絵本『だるまさんが』に夢中です。

「だーるーまーさーんーが…」

保育者の声に合わせて身体を揺らす子や、真剣な表情でじっと見つめる子。様々な反応ながらも、絵本に興味津々です。読み終わると、まるで“もう一回！”と言っているかのように声を出してアピールする場面も。大好きな絵本を繰り返し読んで、満足げな子ども達です。

保育者が絵本を読み始めてから、子ども達の絵本に対する興味が深まったように感じます。今まで絵本を舐めて遊ぶことが多かったCくんは、パラパラとページをめくったり、じっと絵を見つめる姿が見られるようになってきました。

一つの遊びから様々な発見が生まれます。たくさんの経験を通して、発見することの楽しさや面白さを味わっていきたいですね。



Ato1

見たものや自分の思いを言葉にして、保育者や友だちに伝えるようになってきた子どもたち。
粘土で遊んでいる時も、手の動きに合わせて擬音を出したり、イメージを言葉にしたりする姿が見られます。

粘土に触れて広がる世界

粘土を見るとすぐに触り始めるAさん。指で回しながらつぶした粘土を見て、「目があって、鼻があって……」とつぶやいています。粘土の形が変わるとAさんの見え方も変わったようです。次に、Aさんは他の粘土を取り、「クルクル」と言いながら手のひらで丸めます。丸くなった粘土を持つと「カタツムリ！」と言い、板の上を歩かせます。偶然カタツムリができたのか、それとも意図して作ったのかわかりませんが、粘土を何かに見立てて広がるイメージを楽しんでいるようでした。

粘土にあまり触れたことのない1歳アート組の子どもたち。Yさんは直接手で触れることに不安を感じたようで、少し控えめな反応を見せました。けれど、保育者が道具を使って見せると興味を持ち、「あれほしいの」と言って遊び始めます。Yさんは粘土に道具の跡がつくと「いもむし」とつぶやき、「ギザギザするの」と言って他の粘土にも触れていきます。大人の模倣から道具を使って粘土に触れたことで、Yさんの見る世界が広がっていくようでした。

友だちと一緒にいる楽しさ

椅子に座るとしばらくは粘土に触れず、側で遊ぶSさんやAさんの様子を見ていたIさん。Sさんが「クルクル」と言いながら粘土を丸めると、Iさんも嬉しそうにSさんの真似をし始めました。夢中になって遊ぶSさんの存在がIさんの「やってみたい！」という意欲につながり、Sさんと同じことをする面白さを感じているようでした。子どもたちは粘土と向き合うだけでなく、周りで遊ぶ友だちの様子をよく見て、言葉にも耳を傾けています。友だちをきっかけにして新しいものに出会い、発見もしていきます。これからも友だちと一緒にいる楽しさを感じながら、好奇心を高めていくことでしょう。



PICO2

友達と一緒になら…

雨上がりの公園に、大きな水たまりができていました。水たまりの周囲で木の枝を使ってつつき、控えめに泥と向き合っていた子どもたち。そんな中、YさんとSさんが水たまりの前に二人並んで立っていました。どうするのかなと見守っていると、突然、YさんがSさんの両手をグイッと引っ張り泥の中へ…。Sさんは何も言わず、Yさんに身を委ねました。泥を握ったり泥のついた手を眺めたり、そんなSさんの様子を見てYさんは嬉しそう。喜びを分かち合うかのように、一瞬でダイナミックなどろんこ遊びへと変わっていききました。



楽しさを共有し合ったYさんとSさんは、その日の帰り道「Yちゃんがいい。」「Sちゃんがいい。」と仲良く手をつないで歩いていました。

みんなで作る大きな車

ブロックで一つの大きな車を作っていたMさん。そこへ、「一緒に作ろう」とAちゃんとKくんがやってきました。ブロックの車の上に、さらに高くブロックをくっつけていくAちゃんとKくん。途中ブロックがぐらつき、倒れる場面も。「きゃー」「あーあ、壊れちゃった」と壊れても悲しむことなく、笑いながら何度も積み上げていく二人。その様子を見てMさんは「フフフ」と声に出して笑っていました。一人でじっくり作るのも楽しいけれど、友達と作り上げるその時間が、より一層“楽しい”を引き出していました。Aくんが完成したブロックを保育者に見せてくれました。「Mちゃんと作ったの。」その一言から嬉しさが伝わってきました。



NAV03

『発見・チャレンジ・優しさ』の詰まったサーキット

“気付き”や“やってみよう”がたくさんある3歳児。

サーキットでは毎回たくさんのおもしろいエピソードがあるので、そのいくつかを紹介します。



マットトンネルが“バランスマット越え”に進化しています。硬い巧技台を支えにしながら下に落ちないようにマット上を進むというもの。



黄色いマットはジャンプの着地点になっていたり、写真の2人は「海だ～」と言ってゴロゴロ進んだりで楽しそう！



オーボックスの上に立ち、みんなの様子を見ています。まるでサーキット監督・・・?!



角度の違う坂道が2つ並んでいます。片側だけを進むのではなく、両足で違う角度を使って進む発想力！



Mくんがトランポリンから離れずにいると、「Mくん、こっち～」と手を握り、進む手伝いをしてくれるAちゃん。



Hちゃんが「オーボックスに登れない！」と苦戦していると、先に進んでいたAくんが振り向き、手を差しだして登れるように手伝っていました。

「こっちにもこっちにも！」

屋上園庭で遊んでいる時に、保育者が水を出したのを見て、AちゃんとKくんがジョウロを持ってきました。ファミリーデーで植えた種に水をあげたくなったようです。パパ・ママと一緒に植えた種があることを覚えていて、全部の種のところに水をあげていました。ひらがなに興味が出てきた2人は、花の写真とひらがなを読みながら、自分が植えた種を見て「カンナにもあげるぞ」と口にしていました。ジョウロの注ぎ口の向きが下になっていることに気付いたAちゃんは、Kくんに「反対だよ」と伝えます。保育者が「上向きだと少し遠いところ、下向きだと近いところにあげられるって聞いたことがあるけど、どうなんだろうね」と口にすると、Kくんが「うん、そうだよ。どっちでもできるんだよ！」と自慢気に言っていました。そんな2人の姿を見てEちゃんや他のお友達も水やりをしないとって順番に水をあげてくれていました。愛情たっぷり注がれて、きっと綺麗なお花が咲くことでしょうね。



NaNo4



☆楽しいlunch time 一緒に食べてるよ☆

給食とおやつを5歳と一緒に食べる事が多くなりました。4歳の部屋と5歳の部屋の両方を使っていますが、5歳の部屋へ行って食べたがる子どもが多いです。テーブルに座ろうとすると、そのテーブルに5歳の友だちがいるかな〜?と意識し、周りをキョロキョロ。5歳の友だちから「ここ来ていいよ〜」と、声をかけられる事もあります。テーブルに4人が揃ったら食事を取りに行き、見本のお皿を見て、見本と「同じ」量にするのか、「少なく」するのかを考え、どれくらい食べられるのかを伝えています。この時に、一緒に並んでいる5歳児が何て言っているのかをよく聞いています。「これ（見本）の半分にする」や、「すごく少なく」など、伝え方も5歳児の影響を受けて変わってきたように思います。

★みんなでサーキット★

感染対策の為、クラスを半分にしてサーキットを行って来ました。子どもの数が少ないと、友達の様子に気付くチャンスも減ります。今月から、ようやくクラス一斉にサーキットが出来るようになりました。

Eくんは鉄棒で足抜き周りが出来るようになっていました。Hくんは久しぶりに一緒に参加したEくんの変化に気付き「せんせい、僕もあれ出来るようになりたい!」と言って来ました。保育者も手伝ってH君も足抜き周りが出来ると、E君は自分のことのように喜び、二人でガッツポーズ!お互い笑顔で見つめ合っていました。

クラス全員で行うことで、仲間意識も高まり、お互いに刺激し合える関係がみられます。そのような姿を見て、子どもにとっての“楽しい”をもっともっと引き出していきたいと思いました。



Nawo5

～お手伝い大好き～

異年齢で活動する機会がさらに増えました。雨天時など室内で過ごす際には部屋を限定せず、好きな場所で好きな遊びを楽しんでいます。特に3歳ナノ組のお世話が大好きで LaQ を作ってあげたり、ままごとではお母さん代わりになってご飯を食べさせたりしています。

給食やおやつの際に1階ホールで2歳ピコ組を見かけると、前かがみになって目線を合わせて話しかけています。そんなある日、2歳の部屋を覗き込むと「2歳さん泣いてるよ～！」と気にする姿が。「お手伝いしてくれる?」「いいよ!」と2歳ピコ組さんの布団を敷いてあげたり、泣いてる子に絵本を見せてあやしたりしていました。「楽しかった!」「また行きたい!」と積極的にお手伝いをする頼もしいお兄さんお姉さんです!



～自分のものは自分で～

シャワーが始まりました。大好きなプール遊びはもうすぐです! シャワーの初日はみんなで持ち物の確認をしました。「タオル～!」「シャツ!」「ズボン!」「パンツ～! きゃ～!!」となぜかパンツは大喜びです。一つひとつみんなで確認するとRくん「ぼくのバッグにパンツ入ってなかった!」と引き出しに取りにいきました。次の日、Rくんは登園すると「今日はちゃんとパンツ入れてきたよ」と自信満々に教えてくれました。忘れ物をしなかったことより、昨日の出来事を覚えていて今日は気を付けようと心掛けてくれたRくんの姿に成長を感じ、とても嬉しい気持ちになりました。誰でも忘れることや失敗はあります。しないに越したことはないですが、忘れたり失敗したりした時に“どうしたらいいの?”を考えられるようになってほしいと思っています。就学に向け、自分のものは自分で準備し、見通しをもって行動ができるように、子どもたちと一緒に考え、声をかけていきたいと思っています。



平和は力では保たれない。平和は、ただ分かり合うことでしか生まれない。

(アルベルト・アインシュタイン 理論物理学者 1879~1955)

Atelier



「対話と創造の先に」

5歳ナノ組によるケーキプロジェクトも4年目。今年も昨年と同じように4・5・6月生まれの子ども達が4~6月の3回のケーキ作りを担当するというような分担で、1年間のケーキを作っていきます。

先日の誕生会でその役割を終えた4・5・6月生まれの6人ですが、プロジェクト活動の中で特に印象に残ったエピソードを二つご紹介します。

ひとつ目は、一番最初の集まりでのこと。アトリエに集まった6人は、それぞれ自分の作りたいケーキのイメージを出し合いました。近いアイデアもありましたが、やはり6人6様。もちろん作るケーキはひとつなので、さあどうしようかということになりました。すると、
「ジャンケンで勝った人のにするのはどう？」
「うん、いいよ」「そうしよう」
あっさりジャンケンに決まりかけたその時、Aさんが小さな声で「ジャンケン、イヤだあ…」と勇気を出して言いました。



もう一度皆で考えると、次に出た案は全員のアイディアを合体させる方法。するとBさんが**「全員のを合体させると、ケーキの形がバラバラになっちゃうよ」**と。今度はCさんが**「だったら二人ずつのアイデアを合体させて作ればいいんじゃない」**と提案。やっと決まった方法は、6人をアイデアが近い2人による三つのペアにして、ひと月ずつそのペアの考えを尊重したケーキを皆で作るという今までには無いやり方でした。ペアは三つなので、3ヶ月の中で必ず一度自分が中心となる月があるという計画です。この方法で納得した6人は、再度全員のアイディアをよく聴き合い、誰と誰がペアになれば上手くケーキが出来そうかを考えて決めました。



もう一つは、3度目となる6月のケーキを作り終えてのこと。アトリエに何度も集まり、ついに出来上がったケーキに大喜びの6人。翌日の朝、6月の中心となった一人のDくんが**「自分の出した (アイデアの) カエルを、みんながやってくれて嬉しかった」**と完成した時の気持ちを話してくれました。同じ日の昼食後、ケーキの名前を決めるために6人がアトリエにやって来ました。私は朝のDくんの言葉を思い出し、他の5人にも感想を聞くと**「楽しかった〜」**とAさんが一番に口を開きました。そこで私は**「どうして楽しかったんだろう？」**と尋ねました。Aさんはしばらく考え、笑顔でこう話してくれました。

「どうしてか分かったよ、Dくんがいい感じのアイデアを出してくれたから楽しかった」
その言葉を聞いたDくんの表情も、幸せそうに輝いていました。

どうやらアートは、人と人が分かり合うためのとても幸せな触媒のようです。このように子ども達は、対話や創造の先に素敵なものが生まれるということ、私達大人にいつも教えてくれるのです。 (文責：一然)

Lunch & Snack time

食育だより

7月に入りいよいよ夏本番です！暑い日が続きますが、食欲は落ちていませんか？

食欲が落ちると、体力が消耗して夏バテになることもあります。冷たい麺などが食べやすいですね。たくさんの量を食べられなくても、3つの色（赤・緑・黄）を意識して栄養バランスの良い食事を心掛けましょう。

5歳ナノ組さんから採れたての野菜が届きました。少しずつになりましたが、初物をみんなでもいただきました。

「なすはいらない。きゅうりだけね。」「トマト大盛り！」と、みんな好みがあるようです。おいしそうになすを食べている隣の友だちを見て「やっぱりなす食べる。」と、ひと口でパクリ。「おいしい〜！」「採れたてだからおいしいんだね。」

自分たちで収穫した喜びと、お友達との関わりが、旬の味覚をさらにおいしくする調味料となりました。



アルテの畑からお知らせ
ミニトマト・トマト・きゅうり・なす・しそ・
すいかが、元気よく育っています。



★ 旬の食材 ★

鱈・メロン・トマト・ズッキーニ・
とうもろこし・枝豆・おくら・なす
きゅうり・スイカ・かぼちゃ

★ 7月の行事食★

7/1（金）夏野菜カレー

7/7（金）七夕会

[昼食]七夕そうめん・枝豆入り真砂焼・すいか
7/12・26（火）

[おやつ]とうもろこし

★5歳ナノ組 皮むき体験予定

7/22（金）お誕生日会

[昼食]カレーピラフ・鱈のパン粉焼き・メロン
[おやつ]季節のゼリー



熱中症対策

乳幼児は体温調節機能が十分に発達していないため、大人より熱中症にかかりやすいといわれています。

○水分を多めにとろう

子どもは新陳代謝が活発なため、汗や尿から出ていく水分が多く脱水を起こしやすい体です。水分を多く含む食事や、定期的な水分補給を心がけましょう。

○熱や日ざしから守ろう

子どもは自律神経の働きが未熟で、放熱や発汗による体温調節がうまくできません。熱のこもらない素材や薄い色の衣服を選び、帽子を身に着けるようにしましょう。

○地面の熱に気を付けよう

ベビーカーの利用や背の低い乳幼児は、大人よりも地面に近い環境で過ごすため、地表からの熱を受けやすくなります。気温や湿度を気かけましょう。

○暑い環境に置き去りにしないようにしましょう。

「寝ているから」「短時間だから」と放置するのは危険です。特に、車内に置き去りにするのはやめましょう。

○室内遊びも油断しないように

日差しがない屋内でも、屋外と同じ対策を行いましょう。

○外で夢中になりすぎない

遊びに夢中になると、のどの渇きや気分の悪さなどの熱中症のサインに気づくのが遅くなります。

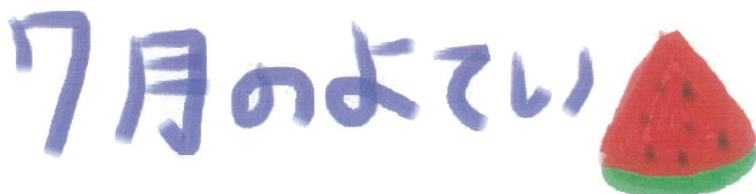
虫刺され おうちでのケア

- ① 石けんなどでよく洗って流水で流す。
- ② 患部を氷嚢などでしっかり冷やす。かゆみが軽くなります。
- ③ かゆみ止めの軟膏を塗る。

虫刺されを掻き壊してしまうと“とびひ”になる恐れがあります。

とびひはプールに入れません。

プール前には皮膚状態を観察させていただきます。皮膚状態によっては当日プールに入れない場合があります。



発育測定 7月 8日(金)

0歳児健診 7月 7日(木)

7月 14日(木)

